

未破裂中大脳動脈瘤に対する塞栓術

赤路 和則¹⁾ 富尾 亮介¹⁾ 植杉 剛²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[目的]未破裂中大脳動脈瘤に対する塞栓術は、分枝に騎乗している広頸瘤が多いこと、開頭 clipping 術が困難ではないことから、良い適応かどうかは疑問である。当院では未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術選択症例が増加し、2018 年では 8 例（47%、開頭 clipping 術選択症例 9 例）であった。当院の治療経験より、未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術の有用性を検討した。

[方法]当院で 2000 年 1 月から 2018 年 12 月までに瘤内塞栓術を施行した中大脳動脈瘤 28 例 30 手術を対象とした。年齢は 51 歳から 79 歳、男性 10 例、女性 18 例であり、瘤の最大径は 3.0mm から 9.3mm、

[成績]全例で塞栓術可能であり、double catheter technique 2 例、balloon catheter 使用 11 例、Neuroform Altas 使用 5 例であった。手技に伴う永続性合併症はなかった。30 塞栓術の術直後 DSA 所見は 6 例で complete occlusion、20 例で neck remnant、4 例で body filling であった。1 年後 DSA 所見は、18 例中 6 例で complete occlusion、11 例で neck remnant、1 例で body filling であった。術後破裂はなく、28 例 2 例（7.1%）で再発を認め、再塞栓術を行った。

[結論]手技に伴う永続性合併症がなく、未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術の治療成績は良好であった。術後破裂はなく、7.1%で再治療をした。血管内塞栓術が適している症例もあると考えられた。